

おめでとうございます

秋の叙勲

梅林さんに旭日小綬章

さまざまな分野で活躍し、社会貢献した人々を表彰する「秋の叙勲」が11月3日、内閣府から発表され、日野町では梅林豊さん（金持）が旭日小綬章を受章、11月6日に知事公邸で伝達式が、9日に皇居で拝謁が行われました。

梅林さんは、昭和54年に町議会に初当選後、6期23年にわたり町議会議員として活躍、経済常任委員会委員長、教育民生常任委員会副委員長を歴任し、平成3年2月から11年間議長として議会運営に努力されたほか、県の議長会会長も務められました。

平成14年2月には町長に就任、以後4年間にわたってまちの発展に尽力されました。特に、平成12年発生の鳥取県西部地震の被害から、議長・町長時代を通じてまちを復興に導いたことは最も大きな功績です。今回の受章は、それらの長年にわたる地方自治への貢献が評価されたものです。



受章のことば：「町が危機にあるこの時期にいただいていたのかとためらいましたが、皆さんのおかげと思い感謝しています。今までで印象的なのは、町民皆さんの力で西部地震から復興できたこと。これが一番うれしいことでした」

微生物の力で汚泥を処理

黒坂地区農業集落排水有機汚泥消滅化施設が完成

まちでは、黒坂地区農業集落排水で発生する汚泥を微生物により水と炭酸ガスに分解する新しいシステムを導入、10月27日に同排水処理場（黒坂）で完成式を行いました。

環境に優しい画期的システム

この汚泥消滅化システムは、島根県雲南市の株式会社和喜産業（宇田川和義代表取締役）



排水処理場に隣接する汚泥消滅化施設

と、松江市の和喜プロジェクト（梅隆喜代表取締役）が開発したもの。汚泥に水を加え、微生物が入った6つの水槽を順次通して発酵させ、さらに微生物入りのスギ・ヒノキのチップを敷き詰めた反応槽に入れて、最終的に水と炭酸ガスに分解するという画期的な仕組み。分解後の水は放流せず施設内で循環させるため環境に優しいのも大きな特長です。また、汚泥処理にかかる費用も大幅に削減でき、今回の契約では、処理費用を45%削減しています。

実証実験施設として建設

この施設は全国初のシステム実証実験施設として建てられたもので、建設費用（約3500万円）は和喜産業と和喜プロジェクトが全額負担し、効果が認められれば、まちは両社に処理費を支払うこととしています。

完成式典で景山町長は「全



木材チップの入った反応槽

国初の試みであるこの汚泥消滅化施設が、この日野町から全国に広がっていけばとても喜ばしいこと。成功するという確信もあるが不安もある。まちの皆さんの期待に応えたい」とあいさつしました。

1年間の実証期間の後、効果が認められれば、将来的に他の施設の汚泥処理も視野に入れた検討をする予定です。環境に配慮しながら財政的にも有利なこの施設に、大きな期待がかかっています。

展示・即売・演芸の 3部門でにぎわう

生きいき「ひの」ふれあいまつり

町民どうしの交流を深め、明るいまちづくりを進めようと、10月20日・21日の2日間、第30回生きいき「ひの」ふれあいまつり(同実行委員会主催)が、役場前駐車場、山村開発センター、町文化センターを会場に開かれました。

山村開発センターで行われ、来場者の目を楽しませました。展示部門では、町内の文化サークルなど21団体による、

手芸、墨彩画、写真、ちぎり絵、では、まちの特産品や農産物、加工品などの即売や、ポラン



森の子合唱団のかわいいパフォーマンス



とれたて野菜などが並び



沖縄音楽のライブも



きれいなハーモニーを聞かせる



まちの芸術家の作品が一堂に

ティア団体などによるバザーが行われ、お土産などを買求める人らでにぎわいました。21日に町文化センターで行われた芸能部門には町内8つの文化団体が参加し、コーラスや楽器演奏、演劇など、日ごろの活動の成果を披露、客席からの拍手を受けていました。催しの最後を飾るのは、恒例のお楽しみ抽選会。今回は25団体から計145本の景品が出品、景山町長や実行委員らによる抽選が行われました。



お寄せします 提案箱

『提案箱』に寄せられたご意見・ご提案の一部をご紹介します。

(町内の方からのご質問)

「町の鳥」指定について質問します。

県内のいくつかのまちで町の鳥が指定されているようですが、日野町での指定の動きについて教えてください。

(総務企画課からの回答)

ご質問ありがとうございます。

現在日野町では、ツツジを「町の花」に、スギを「町の木」に指定していますが、「町の鳥」は指定していません。

毎年日野川に多く飛来するオシドリを町の鳥に

指定してはというご意見もお聞きするところですが、町ではオシドリを保護している半面、農産物などに有害な鳥としてカラスの駆除を行っています。

町では、オシドリもカラスも同じ野鳥としてとらえており、一方を町の鳥に、一方を駆除することは鳥獣保護の観点から相反することも考えられます。

町民生活に被害をもたらす以上、有害鳥獣の駆除はやむを得ないところですが、オシドリについては、今後も「まちのシンボル」として可愛がっていただきますようお願いいたします。

まちへのご意見・ご提案などなんでも提案箱へお寄せください。寄せられたご意見の一部と回答を紙上でご紹介します
提案箱の設置場所=町役場、役場黒坂支所、根雨および黒坂郵便局